

## シンポジウムの結果報告

## 新水道ビジョン シンポジウム

## 地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道

日時 平成25年3月1日（金）  
13:30～16:00

場所 牛込筆筥区民ホール

主催 厚生労働省健康局

## プログラム

司会 横山林沙（ミス日本「水の天使」）

■ 13:30

## 開会

## 主催者挨拶

■ 13:35～14:35

## 基調講演

滝沢 智（東京大学大学院教授）

## 「今後の水道が目指すべき方向性」

日本の総人口の減少や東日本大震災の経験など、水道をとりまく状況の大きな変化を踏まえ、水道関係者の人心一新の象徴として、また、来るべき時代に求められる課題に挑戦するため、新しいビジョン（新水道ビジョン）を公表することとなりました。新水道ビジョンでは、これまで約130年間、住民の生活を支えてきた水道の存続を前提に、今から50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するため、今後、当面の間に取り組むべき事項、方策について提示します。



■ 14:35～14:50

## 休憩（会場準備）

■ 14:50～16:00

## パネルディスカッション

浅見 真理（国立保健医療科学院）

## 「安全な水の供給は保証されているか」

岡部 洋（日本水道工業団体連合会）

## 「危機管理への対応は徹底されているか」

吉岡 律司（岩手県矢巾町上下水道課）

## 「水道サービスの持続性は確保されているか」



■ 16:00

## 閉会

## 参加者

|        |       |
|--------|-------|
| 水道事業体  | 151 名 |
| 関係団体   | 38 名  |
| 民間企業   | 160 名 |
| 座長・構成員 | 10 名  |
| 関係省庁   | 7 名   |
| 合計     | 366 名 |



### ▼主催者挨拶（石飛課長）

- ・ 想定を大幅に超える方々にご参加頂き、新水道ビジョンへの関心や期待の高さを実感している。今回のシンポジウムで新水道ビジョンの核心部分をご理解頂き、パブリックコメントにご意見をお寄せ頂きたい。

### ▼基調講演（13：35～14：35）滝沢座長-----【資料-2-2 参照】

- ・ これまで1年間かけて、11名の構成員とともに検討会で議論してきた。
- ・ 水道ビジョンの沿革について、現行のビジョンでは、安全・安心・持続・環境・国際の5つの柱で構成しているが、今回は環境と国際を他の部分で項目を立て、3本柱とした。
- ・ 策定の背景として、人口減少社会の到来と東日本大震災がある。
- ・ 我が国の人口は、100年後には4,286万人（明治時代のレベル）に、2060年には、8,674万人まで減少するとの予測結果が出ている。大都市では減少は緩やかだが、地方によっては20%以上減少し、水道事業運営は大きな影響を受ける。
- ・ 投資のピークは昭和48年頃と平成10年頃に2回あった。この度の料金改定において、水道料金を値下げしている事業体が40%あるが、持続という面からは問題である。
- ・ 東日本大震災の被害の特徴は、津波、原発事故、電力バランスが崩れる等、かつてない事象をもたらした。通信手段の断絶、燃料不足、薬品等の資機材不足も経験した。
- ・ 世界のトップランナーを維持し続けることは難しいが、次世代につなげることが重要。
- ・ 以下、「新水道ビジョンの基本理念」について「別添-1」参照。

### ▼パネルディスカッション（14：50～16：00）

コーディネーター：滝沢座長

パネリスト：浅見構成員、岡部構成員、吉岡構成員

### ▼話題提供

#### 浅見構成員（安全な水の供給は保証されているか）-----【資料-2-3 参照】

- ・ 日本の水道は、安全性の確保という面では達成しているが、“もう少しという所”が課題。この2年間に利根川の水質事故（ホルムアルデヒド）や、群馬県でのジアルジアによる事故、放射性物質による汚染等が発生している。
- ・ 自然由来・生物由来・化学物質等、様々な影響によって汚染を受ける「水道システム」の維持が大切。
- ・ 平成10年～平成19年の間の水道水による健康被害状況（健康危機管理要領による報告

のまとめ)をみると、簡易水道や専用水道、自家用井戸の汚染によるものがほとんどである。

- ・ クリプトスポリジウム等の病原性微生物は、表流水を水源とする浄水場では測定すれば30%程度は検出される。
- ・ 「水安全計画」の策定率は9%足らずである。自らの水道を診断し、体力づくりをすることが安全性向上につながる。

#### 岡部構成員（危機管理への対応は徹底されているか）-----【資料-2-4 参照】

- ・ 大地震にはサイクルがある：東海地震は100年～150年周期で発生すると言われている。最近では、震度6の地震が年一回は日本のどこかで発生している。
- ・ 水道のない生活が想像出来ますか？：1日1人3リットル3日間で十分かを問いたい。
- ・ ライフラインとしての認知：医療機関、救助機関、レントゲン撮影にも水が必要。
- ・ 水道は強靱か？：東日本大震災での管路の被害率は0.08箇所/km、全体で5,000箇所の被害が発生。レベルⅡに相当する地震強度。共助（広域連携）、公助（国レベル）もあるが、事業体自らの自助が重要。
- ・ 効率的強靱化：重要管はバックアップが大事。地盤の液状化と管路被害箇所は一致する。耐震化率50%以上では、被災率0.05件/kmとして1,000kmの管路総延長の場合は50件の被害で済む。そのためには広域災害に備えた資材備蓄も重要。
- ・ しなやかさ、強さに加えて、バックアップ、IT化が重要。ダウンサイジングを踏まえたアセットマネジメントやBCPの作成も必要。
- ・ 住民の理解が得られているか：相手のレベルに応じたPRが重要。

#### 吉岡構成員（水道サービスの持続性は確保されているか）-----【資料-2-5 参照】

- ・ 水道サービスの持続性は確保されているかという視点から、持続について、わが町の例と絡めて話題提供する。
- ・ 最初の頃は、効果が目に見えない、料金値上げしたくとも理解も得られないといった状況だった。普及拡大の時代は、住民も事業者も方向性は同じだった。料金体系は変動費がごくわずかで、7年後には水道料金を150%アップさせる必要があった。
- ・ 仕事に納得解が必要な時代を迎えている。如何にして住民とコミュニケーションをとるかが課題。
- ・ “アウトリーチ”という手法により、駅前で1,000人に聞き取り調査を実施したところ、最初は料金値下げを主張する声が多かった。水の安全性について、住民の方は蛇口から出てくる水には関心があるが、水源や施設には関心が低かった。
- ・ 施設見学を通して、水道施設にも寿命があること、「利き水」を通して、水道水の方がペットボトル水よりおいしいことを知って頂いた。
- ・ こうしたことを経て、上下水道課との間に信頼関係が醸成された。住民とは双方向のコミュニケーションが基本であり、料金を支払ってもらいながら事業体への信頼の循環を持続することが重要。

#### ▼パネルディスカッション

##### ○新水道ビジョンのポイントについて

滝沢座長      新水道ビジョンは、これまでのビジョンに対してどこが新しくなるのか。

|       |                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------|
| 浅見構成員 | やれること、着実にやって頂きたいことを新水道ビジョンで検討してきた。事業体は自らを診断し、体力をつけて安全な水道を持続させて頂きたい。 |
| 岡部構成員 | 水道をとりまく大きな転換点という背景がまずある。もう一つは、中小規模の水道事業体が意欲をもって取り組んで頂くことが重要である。     |
| 吉岡構成員 | 中小水道への関わりを意識したものであることと、関係者間の役割分担を明確に示したことが大きな特徴と考えている。              |
| 滝沢座長  | 水道に関わる全ての方が、積極的に取り組んで頂きたいという思いをこめた点も大きな特徴の一つである。                    |

## ○東日本大震災の経験について

|       |                                                                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 滝沢座長  | 東日本大震災の教訓・経験は十分盛り込むことが出来ただろうか。                                                                                                    |
| 浅見構成員 | 数値目標のような具体的な記述は少ないかもしれないが、このビジョンを読みとって、考えてもらうきっかけになればと思う。特に、広域災害によって流通が止まるという経験を踏まえ、どういったバックアップを講じて、どこに協調を求めたら良いかといった教訓を生かしていきたい。 |
| 岡部構成員 | 今回の震災のような広域災害を受けて、如何にして自らの力で最低限の水道水を供給していかなければならないかを痛感した。こうした経験が風化しないよう、情報を発信し続けることが重要。                                           |
| 吉岡構成員 | 矢巾町は震度VI弱に見舞われた。災害時においては、自立していかなければならないことを強く感じた。薬品が減ってゆくなど、サプライチェーンの確保が重要であり、このような観点から、水道界の枠に捉われないことも重要。                          |
| 滝沢座長  | 連携と自助というキーワードがあるが、お二方より、まずは自助が重要とのご指摘を頂いた。また、サプライチェーンを機能させるためには、水道界の枠だけではなく、様々な部署に対する働きかけも必要である。                                  |
| 岡部構成員 | 住民の方々は、水源の問題や施設の老朽化など、ライフラインの元のことをあまりご存じないので、地域全体で情報を共有化していく必要がある。                                                                |

## ○人口減少下における水道事業運営について

|       |                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 滝沢座長  | 人口や有収水量の減少に伴い、中小水道事業はどういった点に注意して事業経営を行っていくべきか。                                                                                        |
| 吉岡構成員 | 人口減少のスピードは地方が最先端を進んでいる。これまで大都市中心で果たしてきたロジックが使えなくなるので、小さいなりの工夫、住民との連携によって地域で支えることが求められる。アセットマネジメントや水安全計画などに着手していない事業体が進めていく方法を探していきたい。 |
| 滝沢座長  | 特に中小の水道事業体が水の安全性を確保していく上で、どのような点が重要だろうか。                                                                                              |
| 浅見構成員 | 最も大事なことは、声を上げて相談してほしいことである。中小は水質担当者が少なく、相談するところも限られるので、日頃悩んでいる方も多いと思われる。お互いに情報交換することによって水質管理を行って頂きたい。                                 |
| 滝沢座長  | 水道事業体の職員が減って行く中、官民連携の果たす役割が期待されるが、どうすれば力を合わせて水道を支える仕組みを作っていけるだろうか。                                                                    |
| 岡部構成員 | 民間には経験が少ないと言われているが、事業体との人材交流によって対応出来れば良いと思う。これまでは、事業体でやることと民間でやることが明                                                                  |

確であったが、これから中小規模の事業体が全ての業務を担当することは困難になってくるので、官民の連携によって対応していく必要がある。

## ○環境と国際について

- 滝沢座長 現行のビジョンで掲げられていた「環境」と「国際」は、新水道ビジョンの中でどのように位置付けているのか。
- 岡部構成員 日本では事業体が行っているようなことの多くを海外では民間が行っており、海外業務を経験することは人材育成に役立っている。民間の立場で言えば、海外経験を通して底力をつけていくことが重要。
- 滝沢座長 日本の水道も海外の動きをしっかりと見ていかなければならないが、その一方で、中小の水道事業体が常に国際のことを考えて事業運営を行うことも難しい面がある。また、環境負荷について、個々の水道事業としては大きなものではないかもしれないが、水道界全体としては重要なテーマである。
- 吉岡構成員 矢巾町において、「国際」がピンとこなかったのは事実であるが、今回のビジョンで国際の旗を降ろしたのではなく、持続の要素と位置付けたい。検討会の中で北九州市の国際的な取り組み等を知り、その重要性を理解した。
- 滝沢座長 環境というと温暖化のことを連想するが、もっと広い意味を含んでおり、例えば水質に関する情報を発信していくことも、環境の取組に位置付けられるのではないか。
- 浅見構成員 JICA の研修などを引き続き継続して頂きたい。スポーツ界でもそうだが、海外に出て行く人がいて、国内で活躍する人もいるという状況によって競技が盛んになっていく。国際的な規格や安全性評価等の動向にも注意しておく必要がある。

## ○フロアからの質問

坂本専務理事（水団連）

様々な議論をありがとうございます。検討会の資料と議事録を拝見した。大変なご苦労があったと思われる。全体としては王道を行くというか、浅見先生がおっしゃっていたように、やるべきことをやって安全な水を継続して供給するという思想は良いことだと思う。一方、議論の中で「水道法」を是認している点については危惧している。水道法が制定されてから 50 年以上が経過している。当時は普及拡大の時代であり、事業法としての位置づけであった。世の中が大きく変わる中で、今取り組んでいる水循環基本法が近いうちに制定されるだろう。その後に水道法や下水道法の改正に取り組むことになるなど、そういった社会の仕組みの変化にもフレキシブルに対応出来るように、例えば挑戦や連携のところで書いてもらいたい。

滝沢座長 社会の仕組みも変わってくるというご指摘であり、その中には法律や行政の仕組みも変わっていくので、そういったことも踏まえてビジョンを作っていかなければならないというご意見だと受け止めています。

聴講者（広島市水道局の方）

過疎地が限界集落になりつつある中で、水の供給方法にバリエーションを増やしていくような記述があったが、水道法の定義に当てはまらない供給方法

- を認め、法改正も念頭に置いた動きがあるのでしょうか。
- 滝沢座長 ビジョンの中では、具体的な法律の改正にまでは踏み込んでいない。重要なことは、全ての国民が適切なコストによって安全な水を利用出来る状況を作ることが重要であり、そのような観点から盛り込んだものである。
- 浅見構成員 水道法の改正まで申し上げる立場にないが、離れた集落への水道水の宅配の事例もあるので、こうしたことを踏まえて供給方法の多様化に言及している。

### ○最も強調したい点について

- 吉岡構成員 挑戦して頂きたいの一言に尽きる。これからも安全な水を供給し続けることにチャレンジしていきたい。
- 岡部構成員 私が入社した 33 年前には、耐震管は既に開発されていたが、当時はそれほど熱心でなかったと思われる。水道は長い歴史の中で変わっていくものであり、一歩ずつでも進んでいけば、将来の明るい将来があると思う。今回のことをきっかけとして、みなさんと進んでいきたい。
- 浅見構成員 このビジョンを活用して、今まで出来ないかなと思っていたことを出来るようになるきっかけにして頂きたい。今後 30～50 年後には様々な問題が発生すると思うが、今から体力をつけてみなさんとがんばっていききたいと思います。

最後に最前列でシンポジウムに参加した新水道ビジョン検討委員会構成員を紹介。

